

マイスター



寒河江市立
寒河江中部小学校
マイスター通信
No. 3
令和8年4月28日
文責：軽部 隆一郎

UD・生徒指導の視点からの授業改善・パート1

先週3年生の算数の授業にT2として入らせてもらい、感じたこと・考えたことについて、「ユニバーサルデザイン（以下、UD）」と「生徒指導の実践上の視点」に照らし合わせて考えていきたいと思えます。

□「じゃんけんゲーム」による子どもたちの意欲アップ

- ・かけ算の学習で、授業の中盤に「じゃんけんゲーム（パーで勝つと3点…）」を実際に行うことで、子どもたちが意欲的に、そして「自分事」として学習に臨むことができた。
- このゲームを本時の序盤にもってくることはできなかつたらどうか。そうすることで、1時間の中で子どもたちの意欲やかけ算への動機づけは、より強いものになったのでは。

③ 導入では、興味・関心を高め、動機づけを図る工夫をしている。



授業に集中できない、課題に入る前に意欲をなくしている、すぐに課題に取り組みない



配慮を要する児童生徒に限らず、まだ学習する心構えができていないまま、あるいは興味を持っていないまま授業が進んでしまったことが、問題の要因となっている場合があります。

発達段階や教科の特性に合わせた導入の工夫を行い、その後、意欲的に学習に取り組めるようにする必要があります。

<導入の仕方 例>

- 「おもしろそうだな」、「もっと知りたいな」、「なぜだろう」と思えるような話題を投げかけたり、教材・教具を提示したりする。
- 前時までの学習内容を想起させ、本時の意欲につなげる。
- 本時に必要な既習事項を復習問題で確認する。



県教育センター作成『ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりハンドブック』参照

□先生の例示がつかずく子への支援の一つ

- ・課題を提示し、すぐに自力解決させるのではなく、「例えば…」などで1つの問題をみんなで解いてみることや、例示することで、自力解決に安心して（自信をもって）取り組むことができる。
- すべての問題を先生と子どもたちの「1対多数」や「一問一答」ではなく、子ども同士の学び合いの学習形態も取り入れたい。

□「すごいね、『午前』何時って言えたね！」子どもの発言への価値づけ

・子どもたちの言葉をよく聴き、その良さを伝えることで、子どもたちの自己肯定感が高まり、次の学習への意欲にもつながっていく。

→1時間の中で、なるべくたくさん子どもたちの良い発言を伝えることで、子どもの声を聴くことが習慣化されていく。

発達支持的生徒指導では、日々の教職員の児童生徒への挨拶、声かけ、励まし、賞賛、対話、及び、授業や行事等を通じた個と集団への働きかけが大切になります。例えば、自己理解力や自己効力感、コミュニケーション力、他者理解力、思いやり、共感性、人間関係形成力、協働性、目標達成力、課題解決力などを含む社会的資質・能力の育成や、自己の将来をデザインするキャリア教育など、教員だけではなくスクールカウンセラー（以下「SC」という。）等の協力も得ながら、共生社会の一員となるための市民性教育・人権教育等の推進などの日常的な教育活動を通して、全ての児童生徒の発達を支える働きかけを行います。このような働きかけを、学習指導と関連付けて行うことも重要です。意図的に、各教科、「特別の教科 道徳」（以下「道徳科」という。）、総合的な学習（探究）の時間、特別活動等と密接に関連させて取組を進める場合もあります。

文部科学省作成『生徒指導提要』参照